

## 平成28年度公所長会議あいさつ

みなさん、こんにちは。部課長、地方公所長会議に際しまして、職員の皆さんに私の新年度にかける思いをお話しさせていただきます。

今年度は、10年間の震災復興計画の折り返しに入り、再生期の3年目を迎えました。

創造的復興を掲げ、被災された方々、そして皆様と共に歩んできた道のりは、決して平坦ではありませんでしたが、一つ一つ課題を乗り越え、ここまでやってまいりました。復興に向けた課題は、日々変化しておりますが、今後、5年間も引き続き、県民の皆様寄り添い、創造的復興に向け、共に歩んでまいりたいと考えております。

今年度から復興・創生期間に入りました。集中復興期間は、被災からの復旧、ハード整備が中心となる傾向にありましたが、復興・創生期間は、ソフト対策に

さらに力を入れていくことが必要であります。被災された方々に寄り添い、心と体のケアやなりわい等も含めて、きめ細やかな支援に努めてまいりたいと考えております。

再生期3年目となる今年度は、今まで蒔いた種が着実に実を結んでまいります。

災害公営住宅の整備については、今年度末までに仙台市を含め3市2町で完了する予定であるほか、県全体では、計画戸数の約9割が完成する見込みとなっております。

交通基盤関係では、三陸縦貫自動車道が南三陸海岸インターチェンジまで開通し、気仙沼市、南三陸町の復興を後押しするとともに、観光にも大きく寄与するものと期待しております。また、年末までには、JR常磐線の浜吉田駅と相馬駅の間の運転が再開され、新たな市街地の形成に弾みがつくほか、県内の鉄道の復旧に目途がつくこととなります。

産業基盤関係では、5月に志津川魚市場が、来年の

3月には、女川魚市場が完全復旧いたします。高度衛生管理に対応した最新の施設に生まれかわり、さらなる高付加価値化につながるものと期待しております。

教育の関係では、今月、多賀城高校に、防災・減災のリーダーとなる人材育成のための学科としては、全国2番目となる「災害科学科」が設置されるほか、県内三校目となる特別支援学校高等学園として、石巻圏では、はじめてとなる女川高等学園が開校し、障害のある生徒に対する人材育成も強化をされます。

また、創造的復興に関しては、今月、東北医科薬科大学に、我が国で約37年ぶりとなる医学部が新設され、東北における医師不足の解消に向け、大きな一歩を踏み出しました。

さらに、秋には、ドクターヘリの運行が、仙台医療センターと東北大学病院を基地病院として開始され、県内の救急医療や災害医療の充実が図られます。

また、国管理空港として全国第1号となる仙台空港の民営化が7月に実現し、運営権者やLCCなどの航

空会社と連携して、東北全体の活性化に貢献するグローバルゲートウェイを目指すこととなります。

広域防災拠点の整備については、現在、J R 貨物と移転補償について協議をしており、今年度中の合意を目指してまいります。

水素エネルギーの普及促進については、「東北における水素社会先駆けの地」を目指し、先月、スマート水素ステーションを開設し、また、燃料電池自動車(F C V)を導入したほか、今年度中に、東北初の商用水素ステーションの整備も進めてまいります。昨日、立地協定式をやったのですが、社長からは今年度中ではなく今年中と言っておりましたので、1 2月くらいまでには商用水素ステーションができあがるのではないかと思います。

富県宮城の実現に向けてですが、私は、これまで、宮城が「生まれてよかった、育ってよかった、住んでよかった」と思える県にしていくため、経済基盤の構築を県政推進の柱に掲げ、県内総生産1 0兆円に向け

挑戦してまいりました。我が県の実質県内総生産の平成26年度速報値では、9兆4千6百億円余りに達し、目標としていた10兆円に一步近づき、一人当たり県民所得も二年連続で全国平均を上回りました。

このような好調な経済状況は、税収面にも表れており、今年度の当初予算では、県税収入に3千億円を見込むことができました。これまで進めてきた富県戦略の成果が着実に表れてきたものと考えておりますが、一方、復興需要という追い風がある状況も踏まえ、その縮小後も見据えて、しっかりと気をひきしめて、取り組まなければなりません。税収が良いからいくら使っても良いということでは決してないということですね。必ず、復興特需は終わります。それを見越して考えていかなければならないと思います。

昨年、大筋合意し、先月、関係法案が閣議決定されたTPPに関しては、農林水産業への影響が懸念されていることから、これまで以上に第一次産業の経営の安定化や体質強化を図ることが必要であります。

せて、我が県の高品質な農林水産物の輸出を促進するなど、海外に打って出ていく絶好の機会でもあります。是非、ピンチをチャンスに変えるつもりで積極果敢に取り組んでいただきたいと思います。

昨年度、総合戦略を策定した地方創生については、今年度、その深化を図る取組を展開してまいります。

特に、若者の希望をかなえていくため、地元に魅力的な雇用の場の創出や結婚支援についても、県として積極的に取り組んでまいります。

また、国においては、一億総活躍社会の実現に向け、来月、「ニッポン一億総活躍プラン」を策定する予定ですが、県においても、誰もが活躍できる社会を目指すことが重要であります。今年度は、保育士や介護福祉士の確保のため、修学資金貸付制度の新設や拡充を進めるほか、児童養護施設を退所された方々の自立を支援するため、貸付制度の創設等を進めてまいります。

また、フードバンク設立に向けた実態把握や、障害者の地域生活支援のための施設整備への助成など、

様々な困難を抱えている方々への支援にも重点的に取り組んでいこうとこのように考えております。

今年度は、私が知事に就任してから策定した「宮城の将来ビジョン」の最終年度となります。現在、我が県では、震災からの復興を最優先課題として取り組んでおり、また、県政運営上、将来ビジョンと震災復興計画の2つの計画を最上位計画として位置づけております。このため、将来ビジョンの見直しにあたっては、現行の将来ビジョンの枠組を基本とし、終期を復興計画の最終年度の32年度まで延長し、必要な改定を行ってまいりたいと考えております。将来ビジョンと復興計画、共に長期計画として並立するということです。終期を32年度までにいたしますので、2つの長期計画にのって実施計画を作っていくということには変わりないということです。

次に、仕事に当たっての心構えとして、皆さんにお願いしたいことを3点お話いたします。

まず1点目は、大胆な政策の立案についてであります。他県に比べると宮城県はアグレッシブ、チャレンジングに仕事をしていることは事実であります。そのように評価されておりますが、私は何となく物足りなさを感じております。先日、ある県内の首長から「県職員は、知事が首長への根回しや議会对策を嫌な顔をせず積極的にやることに甘えている。実際、首長のところに相談にくる県職員が非常に少ない。また、創造的復興として行っている事業は、知事がアイデアを提供して動きだしたものがほとんどではないか。宮城県職員が世の中を動かすんだというような、大胆な政策を考え出す気力を失っているような気がする。」と指摘を受けました。私はですね。自分を中小企業の親父だと考えるようにしております。以前、スズキ自動車の鈴木修会長に頂いた本に、タイトルが「俺は、中小企業のおやじ」という本がありました。あれだけ大きなスズキ自動車の会長でありますけれども「自分は中小企業の親父だ。いつスズキ自動車がつぶれるかもしれない。そういう思いで自分は経理もやり、営業もや



り、そして商品開発もやるのだ、そういう気概をもって仕事に取り組んでいる。」というお話でありました。私は、非常に感動いたしました。宮城県も、私が知事になったときは、財政破綻寸前くらいの状態でありましたので、いつ倒れるかもわからない。非常に弱い中小企業だと思う。私はトップにいる。決して、知事だから赤ペンをもってじっとしていれば良いのではなくて、県職員が苦しい時は、自分が前に出て、先頭に立って、その強い風を受けなければならないと思ってこの10年間やってまいりました。その姿勢は、決してこれからも変わることはありません。なんでも相談していただきたいと思えますし、何かあるときには、自分が正面に出ていこうという気持ちは持っております。しかしですね。このように「私に対する甘え」や「思考停止」という風に外から見えていることに、私は非常に残念でありますし、そのことに危機感を持ちました。知事に就任してから10年間、ずっと財政が厳しかったために、県庁組織全体が新しいことにチャレンジすることに消極的になってしまったのかも

しれない。私は、非常に深く反省したわけであります。上司が指示すること以外は恒常業務をやっていけばよいではダメであります。また、「他県でやっているの、宮城県でもやりましょう」ということでは面白みに欠けるわけであります。そうではなく、失敗してもいいので思い切って日本初の政策を俺たちが実現するんだという気概を持って、是非取り組んでいただきたい。これは、本庁のみならず、地方公所の幹部の皆様にも強く要望しておきたいと思えます。

2点目は、昨年も、この会議でお伝えをしましたが、男性の育休の取得促進についてであります。

管理職の方々は、休暇・休業制度について十分に理解いただき、育児プランの確認や、休暇を取得しやすい職場環境づくりに努め、特に、男性職員の育児参加を促して欲しいと思えます。皆さんから部下に「休みなさい」と是非、声をかけてください。「休んでいいよ。」では、絶対休めないですからね。「休みなさい」と。あまり厳しく言うとやめてしまえと聞こえてしまおうとまずいので、聞こえない程度に「休みなさい」と

言っていただきたいというふうに思います。

3点目は、毎年お伝えしておりますが、危機管理体制であります。昨年度は、4月に蔵王山において、火山性地震が増加し、火山活動が活発になったほか、9月には、関東・東北豪雨があり、東北地方で初めて大雨特別警報が発表され、記録的な豪雨となり、大きな被害を受けました。改めて、災害というのは、いつでも容赦なく起こりうるのだと実感したところです。

私たちは、常に危機管理意識をもって、業務にあたらなければなりません。特に、年度始めは、人事異動等により対応能力も脆弱になる時期であります。気を引き締めて、今一度、災害発生時の初動対応や手順等を確認いただき、災害が発生した場合には、迅速かつ確実に対応できるよう危機管理体制の確保について万全を期すようお願いいたします。

今年度も引き続き、全国の都道府県から職員の応援をいただくことになりました。今年度からお越しいた

だく方、昨年度から継続して応援いただいている方には、それぞれの派遣元でも人員の削減がされている中であって、宮城の復興のために御尽力いただいていることに対し、心より感謝を申し上げます。そして、今年も職員一丸となって「前向きな行動力」、「明るさ」、「根性」、「知恵」、「風通し」で全力で頑張ってまいりたいと思います。皆さんと一緒に絶対により遂げることができると思います。

まだまだお話したいことがありますけれども、この後、それぞれの部局で会議があるということでこの程度にさせていただきます。おそらく皆さん、知事の話をもっと聞きたい、特に、職員に対する考え方を聞きたい。そう、みんな思っているのではないかと思います。そういう、あなたのために私は、この度本を書くことにいたしました。6月に出版いたします。知事になって、3冊目でございますけれども、今度の本は、私の生き方、考え方について、正直、私は、自分に対して自信のある人間ではないのです。そういう小

さい頃から自信のなかった人間が、どういうふうにして、今こうして知事になったか書かせていただきました。是非、6月に出版したら職員ポータルに載せますので、皆さん、ご購入をお願い申し上げたいと思います。私、今回も前回と同じように印税をもらいませんので、皆さんが買ったから、私の懐が暖まるということは、決してございませんので、県庁職員の皆様にはこういう生き方・考え方で、知事は県政運営をしているのだなということを少しでも知っていただく意味で書かせていただきましたので、是非読んでいただきたいと思います。6月でございます。まだ本屋に行っても売っておりませんので、よろしくお願い申し上げます。今年も1年間よろしく申し上げます。終わります！！